

山梨県上野原市
市内遺跡発掘調査報告書 3

2018

上野原市教育委員会

序

本書は、上野原市教育委員会が平成24年度以降に実施した遺跡調査のうち、試掘など16件の調査結果をまとめた報告書です。遺跡調査の多くは各種の開発工事に応じて、文化財保護と工事との調整を図るために実施しており、得られた成果は報告書にまとめて出版し、全国の研究機関等と情報の共有を図っています。また、出土遺物や諸々の図面・写真は重要な歴史資料として一括保存し、必要に応じて公開しています。

先人が歩んできた悠久の歴史と奥深い文化を解明する作業は並大抵のことではありませんが、本書に記したような考古学的調査を地道に継続していく中で、遺跡の全容や郷土史を解明する手掛かりが得られるものと考えています。本書を地域の歴史解明や郷土学習にご活用いただければ幸いです。

最後に、これまでの調査にあたってご協力いただいた関係各位、ご指導やご助言をいただいた山梨県教育委員会学術文化財課や埋蔵文化財センターを始めとする関係機関に厚くお礼を申し上げます。

平成30年3月 上野原市教育委員会
教育長 和田正樹

例 言

1. 本書は、山梨県上野原市で平成24年度から平成29年度までに実施した埋蔵文化財試掘調査等の報告書である。

2. 調査は上野原市教育委員会が実施した。調査組織は次のとおりである。

教育長 和田正樹

事務局 社会教育課長 尾形 篤

社会教育担当リーダー 主幹 飯田清美

社会教育担当 副主幹 小西直樹（調査、報告書の編集・執筆・写真撮影担当）

参加者 古根村典子、富岡ます美、公益社団法人東部広域シルバー人材センター会員の皆様

3. 整理作業は市立旧平和中学校で行った。

4. 本書にかかる出土品・記録図面等は、一括して上野原市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書に転載した地図は次のとおりである。

調査地位置図（2頁）：国土地理院発行5万分の1地形図「上野原」・「五日市」

各調査地の位置図：昭和56年国土地理院の承認を得て調整した5千分の1地形図

2. 捕図の縮尺は図版スケール等に明記した。

3. 位置図に示した遺跡の範囲は、分布調査や発掘調査等の成果をもとにした埋蔵文化財包蔵地台帳を基礎としており、随時更新されている。

目 次

序 例言 凡例

第Ⅰ章 上野原市と遺跡の概要	1
第Ⅱ章 遺跡調査	
1 萩野遺跡	3
2 神野遺跡	4
3 大堀Ⅰ遺跡	5
4 椿和田原遺跡	6
5 潟戸原遺跡	7
6 野田尻Ⅱ遺跡	8
7 東大野遺跡	9
8 東区遺跡	10
9 南大浜遺跡	11
10 山風呂遺跡	12
11 牧野遺跡	13
12 塚場古墳群	15
13 上野原字小沢原	17
14 上野原字宮のこし	18
15 新田字福千場	18
16 鶴川字鶴川	18
第Ⅲ章 まとめ	18

第Ⅰ章 上野原市と遺跡の概要

第1節 上野原市の位置と遺跡調査

上野原市は山梨県東端の県境に位置する。地理的な要因から、産業や文化・日常生活全般において古くから関東西部との関係が強い。近世には江戸・甲府・信州を結ぶ甲州街道が整備され、相模川の水運とともに交通の要衝地として栄えた。地勢は関東山地や丹沢山塊に囲まれた山間地域で、桂川（相模川）や支流沿いに河岸段丘地形が点在している。

市教育委員会では、周知の埋蔵文化財包蔵地（市内163ヶ所）における開発事業や、面積が1,000m²を超など市開発行為指導要綱の適用を受ける開発事業については、遺跡の有無や遺存状況を確認するために試掘調査を行っている。

この結果をもとに遺跡保存と開発との調整を図り、遺跡保存が困難となった場合は記録保存を目的とした発掘調査を実施している。



第2節 遺跡の概要

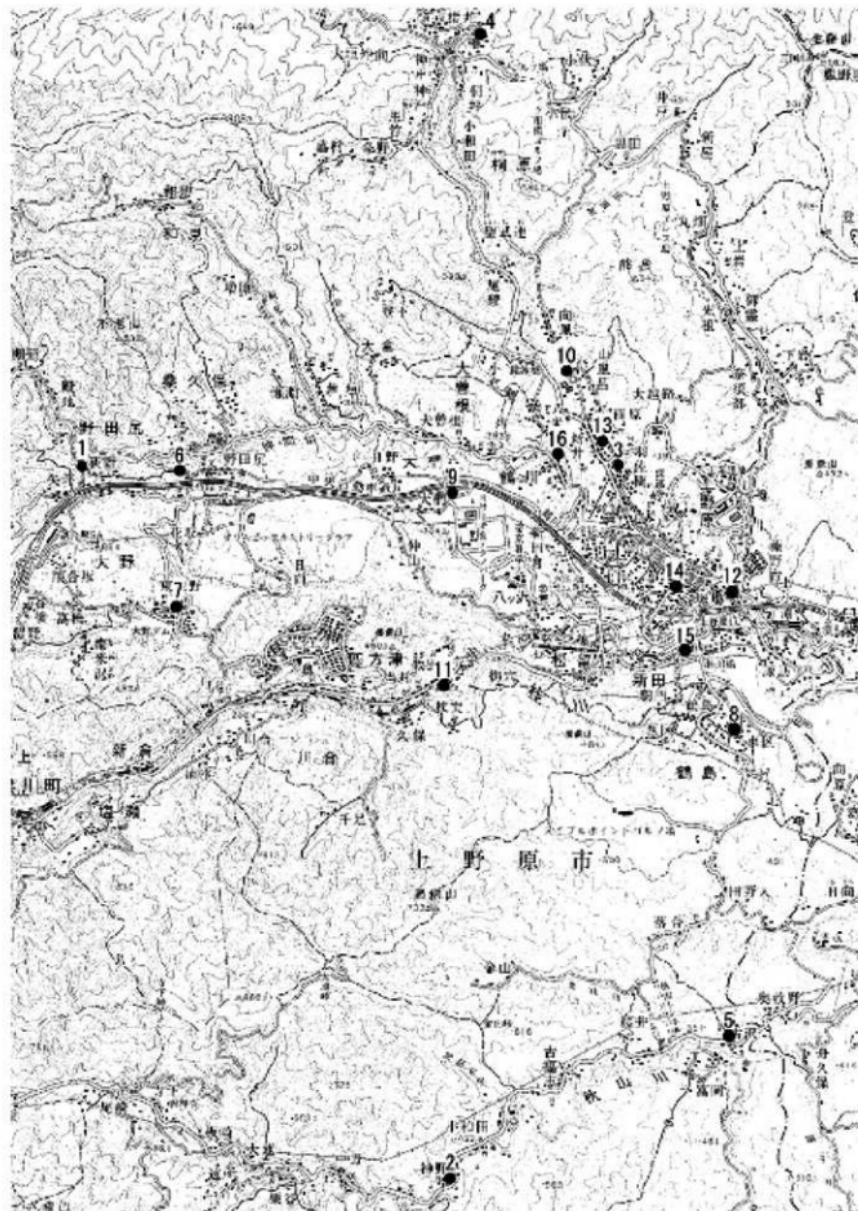
縄文時代の遺跡は、河岸段丘上や丘陵裾部に多数分布する。草創期の遺物と見られる有舌尖頭器は、仲間川流域の南大浜遺跡などで散発的に出土している。早期では市街地近くの新井遺跡で押型文土器1個体が採集されている他、山間地では竪穴住居址や穴穴などの居住域から成る新屋原遺跡や、落とし穴や多数の磨石類が出土したことから狩獵や動植物の加工場と考えられる穴穴遺跡がある。中期の遺跡数は多く、市街地近隣では、大堀II遺跡・関山遺跡・狐原遺跡・南大浜遺跡などで竪穴住居址や多数の土器・石器が発掘されている。後期の遺跡では鶴川流域の原郷原遺跡・用竹殿村遺跡・松留館跡などがあり、多数の土器が出土している。中期末から後期前半に比定される敷石住居址の検出例も多い。

弥生時代の遺跡は数・調査事例ともに少ないが、再葬墓に用いたと見られる中期の壺が南大浜遺跡で発掘されている。

古墳時代の遺跡は、桂川北岸の狐原遺跡などで集落址が発掘されている。狐原遺跡は桂川流域の標点的集落と捉えられ、前期に少數の竪穴住居が出現し、後期に一辺7m前後の大型竪穴住居が急増する。古墳は塚場古墳群・上野山古墳群があり、西ノ原古墳では横穴式石室1基が発見された。いずれも後期古墳の可能性が指摘されているが、古墳の詳細や造営基盤となった集落の実態は不明確である。

奈良・平安時代の遺跡は、狐原遺跡・上野原小学校遺跡・大間々遺跡などで集落址が発見されている。この3遺跡は古墳時代後期から継続し、現在の庁舎一帯にあたる大間々遺跡では竪穴住居址10軒・掘立柱建物址4棟・大型柱穴列等や銅製鉄具・鉄鏃等が出土した。市街地一帯は古代の甲斐国都留郡古都郷に比定され、初期の都留郡衙があった地域と考えられている。

中世の遺跡では、市街地の南に内城館跡があったが、中央自動車道の造成によってほとんど残されていない。この館は平安末期から鎌倉時代、八王子横山党一派の古都氏が居館として造営し、その後は天正10年(1582)まで甲斐武田氏のもとで上野原地域を支配した加藤氏の居館となったと伝えられる。対岸の山稜には複数の砦が分布し、このうち長峰砦では発掘調査で郭や堀切が検出されている。



調査地位置図 (1 / 50,000)

第Ⅱ章 遺跡調査

1 荻野遺跡

調査目的 携帯電話基地局建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市大野字下ノ原5424番1

調査期間 平成24年(2012)6月7日

調査面積 4.5m²(対象面積100m²)

概要 荻野遺跡は扇山東麓の斜面地に位置し、縄文・平安時代の遺物散布地である。調査地点は遺跡中央部の緩やかな傾斜地(標高約435m)で、もとは畑であったが、調査時は草地となっていた。トレンチ2ヶ所を人力で掘削した結果、遺構・遺物はなく、1ヶ所で現代ゴミを含む搅乱がローム層まで及んでいた。このため、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



位置図 (1/5,000)



調査区平面図



調査地全景



- 1 棕土・細粒土
- 2 黄褐色土・粘性・褐色やや薄い。褐色スコリア(5mm以下)・褐色ムコニア(1mm)やや多い。
- 3 黄褐色土・粘性やや強く、硬さり張り。褐色スコリア(1mm)多い。
- 4 棕褐色土・ソフトローム・粘性・硬さり張り。褐色スコリア(5mm以下)多い。

土層図 (1/40)

2 神野遺跡

調査目的 県道四日市場上野原線道路改良工事に伴う
試掘調査

調査地 上野原市秋山字神野6434-2他

調査期間 平成24年（2012）11月27日

調査面積 9 m²（対象面積200 m²）

概要 神野遺跡は秋山川沿いの段丘上に位置し、
縄文時代早期及び平安時代の遺物散布地である。調査
地点は遺跡東端の段丘縁辺部（標高約355m）で、畑
と山林であった。トレンチ3ヶ所を人力で掘削した結果、
表土（層厚20cm～70cm）直下がローム層で、遺構・
遺物はなかった。このため、工事予定地に遺跡が
残存する可能性は低いものと判断した。



位置図（1/5,000）



調査地近景



トレンチ調査状況

おほほり 3 大堀 I 遺跡

調査目的 宅地造成工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原4148-3、4149-6

調査期間 平成24年（2012）12月11日から13日

調査面積 90m²（対象面積900m²）

概要 大堀 I 遺跡は鶴川の河岸段丘上に位置し、縄文時代中期及び平安時代の遺物散布地である。昭和50年・53年、市営小沢東団地建設時の発掘調査では、平安時代の竪穴住居址2軒が検出されている^⑩。

調査地点は団地に隣接する緩やかな傾斜地（標高281m～284m）で、もとは桑畠であったが調査時は草地となっていた。切土計画範囲にトレンチを9ヶ所設定し、バックホーで段階的に掘削した。

調査の結果、すべてのトレンチで大堀川の扇状地堆積層に比定される礫層や粘土層が確認された。過去に検出された平安時代の竪穴住居址は礫層中に構築されていたというが、今回の調査で遺構・遺物は全くなく、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。

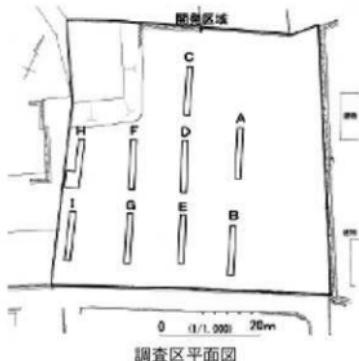
（1）1981『牧野遺跡 大倉遺跡 大堀 I 遺跡』上野原町埋蔵文化財調査報告書第1集 上野原町教育委員会



位置図（1/5,000）



調査地全景



調査区平面図



土層図（1/40）

つばき わ だ はら
4 椿和田原遺跡

調査目的 携帯電話基地局建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市桐原字和田原6595番地

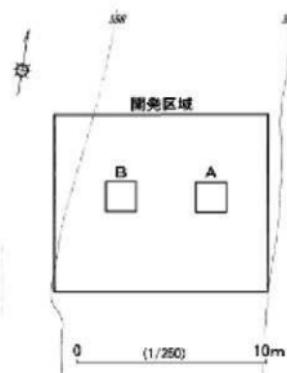
調査期間 平成25年（2013）1月25日

調査面積 6 m²（対象面積120 m²）

概要 椿和田原遺跡は鶴川東岸の段丘上に位置し、縄文時代中期の遺物散布地である。調査地点は遺跡北端の平坦地（標高約370m）で、畠であった。トレーニング2ヶ所を人力で掘削した結果、表土（層厚40cm～65cm）直下がローム層で、随所で耕作による搅乱が及んでいた。遺構・遺物ではなく、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



位置図（1/5,000）



調査地全景



トレーニング調査状況

5 瀬戸原遺跡

調査目的 携帯電話基地局建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市秋山字西原412番地

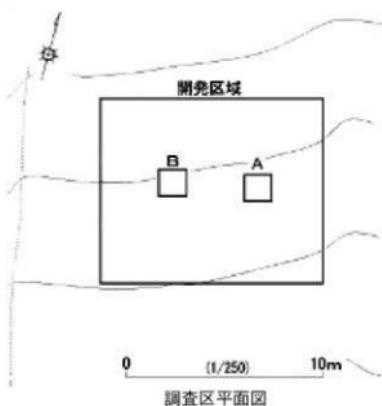
調査期間 平成25年（2013）2月26日

調査面積 6 m² (対象面積120 m²)

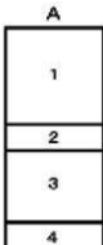
概要 瀬戸原遺跡は秋山川の河岸段丘上に位置し、縄文・平安時代の遺物散布地である。調査地点は遺跡西端の傾斜地（標高約290m）で、もとは畑であったが、調査時は草地となっていた。トレーナー2ヶ所を人力で掘削した結果、表土下の黒褐色土で微細な土師器片2点が出土したが、遺構はなかった。このため、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



位置図 (1/5,000)



調査地全景



- 1 表土 黒褐色の粗粒堆土。
- 2 黒褐色土 勤作やや強く、細まり弱い。
褐色スコリア (1cm以下) 多い。黑色火
エリヤ (5mm程度) やや多い。
- 3 暗褐色土 勤作やや強く、細まり弱い。
黑色スコリア (5mm~1cm) 。炭化土塊
多く。
- 4 褐色土 ソフトコーム

土層図 (1/40)

6 のたじり 野田尻 II 遺跡

調査目的 県道大月上野原線道路改良工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市野田尻914-1、917-1

調査期間 平成25年（2013）11月28日

調査面積 6 m²（対象面積220 m²）

概要 野田尻 II 遺跡は仲間川に面した丘陵斜面地に位置し、古墳時代の遺物散布地である。調査地点は遺跡北端の傾斜地（標高約363m）で、畑と山林であった。トレンチ3ヶ所を人手で掘削した結果、表土（層厚40cm～60cm）直下がローム層あるいは砂礫層であった。遺構・遺物はなく、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



位置図（1/5,000）



調査区平面図



調査地近景



トレンチ調査状況

ひがしおおの 7 東大野遺跡

調査目的 個人住宅新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市大野1385-1, 1385-5, 1385-6,

1386-1, 1386-2, 1386-5

調査期間 平成28年(2016)3月18日

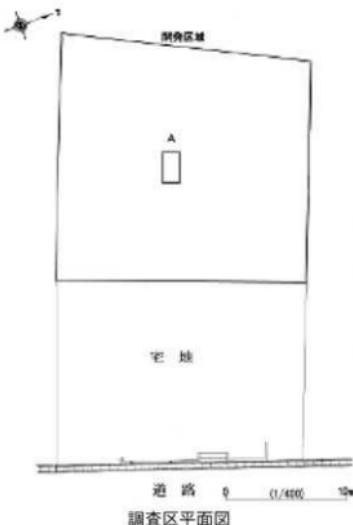
調査面積 2 m² (対象面積291 m²)

概要 東大野遺跡は山間の台地上に位置し、縄文時代中期及び平安時代の遺物散布地である。平坦な畠地（標高297m）にトレンチ1ヶ所を設定し、地表下60cmまで人力で掘削した。調査の結果、耕作土直下に土木工事の搅乱層を確認したため、工事による遺跡への影響は低いものと判断した。搅乱層は粘性がやや強い黒褐色土で、多量の円礫（拳大以下）、ローム塊・礫混じりのコンクリート塊及び縄文時代中期後半の曾利IV式の深鉢土器片1点（右下図）が混在していた。

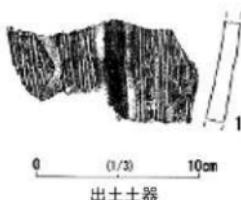
調査地の近くに、大正期を代表する大規模な土堰堤を備えた大野調整池（重要文化財）があるが、住民によると、調査地一帯は堰堤造成用の土を採取して砂利等と混成する作業を行っていた場所という。搅乱層はこの工事に起因し、出土土器が本遺跡に由来する可能性がある。



位置図 (1/5,000)



調査地全景



8 東区遺跡

調査目的 個人住宅新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市鶴島字東665番1

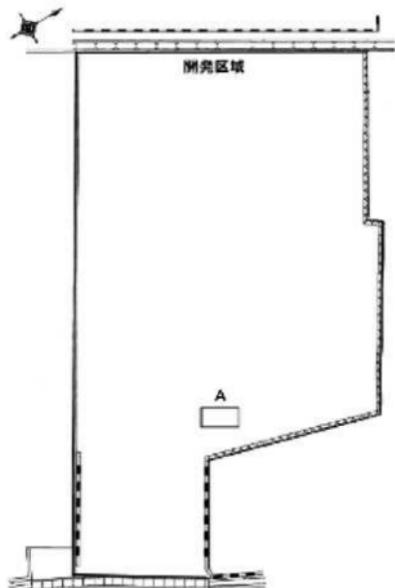
調査期間 平成28年（2016）4月25日

調査面積 2 m²（対象面積328 m²）

概要 東区遺跡は桂川の河岸段丘上に位置し、繩文時代中期の遺物散布地である。調査地点は旧宅地（標高192m）で、浄化槽予定地1ヶ所を地表下50cmまで人力で掘削した。調査の結果、過去の土木工事によって土層の旧状を留めていなかったため、工事による遺跡への影響は低いものと判断した。



位置図 (1/5,000)



調査区平面図



調査地近景



トレンチ調査状況

みなみおおはま 9 南大浜遺跡

調査目的 個人住宅新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市大柄字大浜170-1

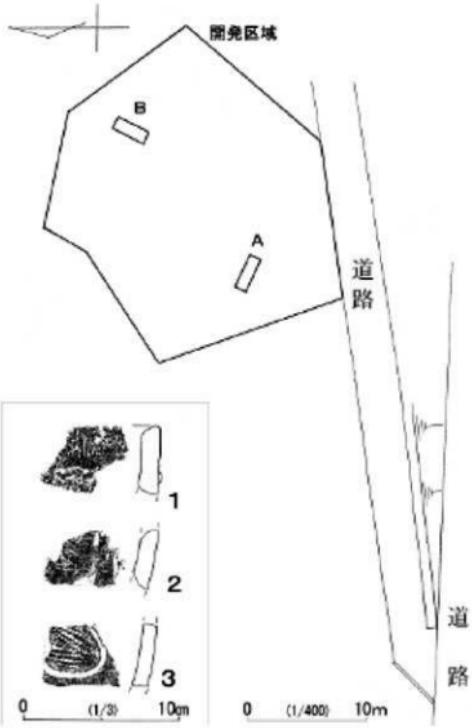
調査期間 平成29年（2017）8月24日

調査面積 6 m² (対象面積480 m²)

概要 南大浜遺跡は仲間川の河岸段丘上に位置し、縄文時代及び土師器の遺物散布地である。調査地点は丘陵頂部の平坦地（標高約315m）で、トレンチ2ヶ所をバックホーで掘削した。調査の結果、表土（層厚30cm）直下がローム層で、表土で縄文土器片が数点出土した（下図）。1は条線地に波状貼付文、2・3は沈線区画内に縄文が施される。いずれも中期・曾利式期に比定される。遺構はなかった。



位置図 (1/5,000)



調査区平面図



調査地全景



トレンチ調査状況

10 山風呂遺跡

調査目的 太陽光パネル設置工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字山風呂原5282番地

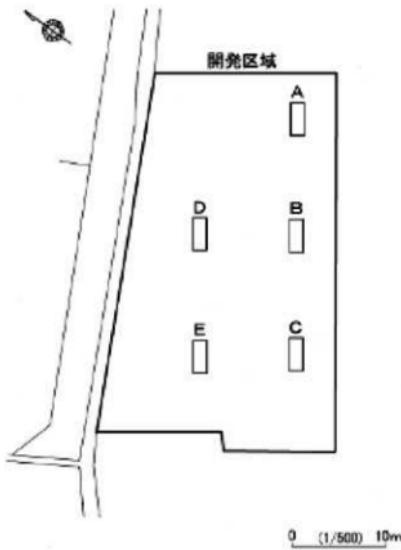
調査期間 平成28年（2016）5月18日

調査面積 20m²（対象面積1,096m²）

概要 山風呂遺跡は鶴川の河岸段丘上に位置し、縄文時代の遺物散布地である。調査地点は遺跡南端の平坦な畑地（標高286m）であった。トレーニング5ヶ所をバックホーで掘削した結果、表土（層厚30cm～40cm）直下がローム層で、随所で耕作により搅乱されていた。打製石斧の破片1点が出土したが、他に遺構・遺物はなかった。このため、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



位置図（1/5,000）



調査地全景



トレーニング調査状況

11 牧野遺跡

牧野遺跡は桂川の河岸段丘上に位置し、縄文時代及び土器窯の遺物散布地である。これまでに実施した試掘調査では、平坦地を中心に粘土質の層が厚く堆積して遺構・遺物は希薄であり、一部で縄文時代中期から後期の遺物包含層が確認されている。この他、明治時代の煉瓦焼成用登り窯1基や時期不明の地下式土坑1基が発掘調査されている。このたび報告する試掘調査は次の3件で、すべて国道20号南側の平坦地で実施した。調査の結果、遺構は皆無で、遺物は段丘縁辺部の第3地点で縄文土器がわずかに出土したのみであった。このため、工事による遺跡への影響は低いものと判断した。

第1地点

調査目的 個人住宅新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市四方津字牧野道下431番1

調査期間 平成24年（2012）11月8日

調査面積 3 m²（対象面積60 m²）

概要 調査地点は国道20号南側の畑地（標高約255m）で、トレント1ヶ所を人力で掘削した。地表下1.2mまで掘り下げたが粘土質の層が続き、遺構・遺物はなかった。



調査地近景

第2地点

調査目的 店舗新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市四方津字牧野道下428、432、434番地

調査期間 平成28年（2016）11月17日

調査面積 30 m²（対象面積690 m²）

概要 国道20号沿いの畑地（標高255m）で、トレント5ヶ所をバックホーで概ね地表下1mまで掘削した。調査の結果、すべてのトレントで粘土質の層が厚く堆積し、遺構・遺物はなかった。一部の深掘りで、粘土質の層は地山ローム層（地表下250cm）まで続いている。



調査地近景

第3地点

調査目的 工場新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市四方津字牧野道下406番地

調査期間 平成29年（2017）9月5日

調査面積 18 m²（対象面積640 m²）

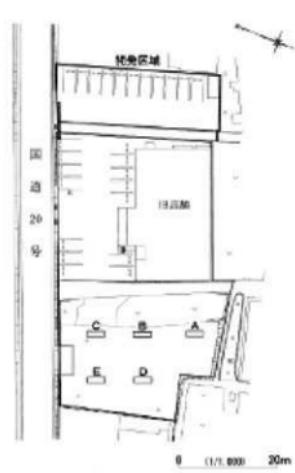
概要 県営上野原団地の跡地（標高252m）で、トレント6ヶ所をバックホーで地表下60cmまで掘削し、広範囲で団地造成・撤去時の搅乱を確認した。一部を掘り抜き、ローム層（地表下120cm）上の暗褐色粘質土で縄文後期の土器細片を数点確認した。同期の遺物包含層は隣接店舗の試掘調査（平成11年）で見つかっている。



調査地近景



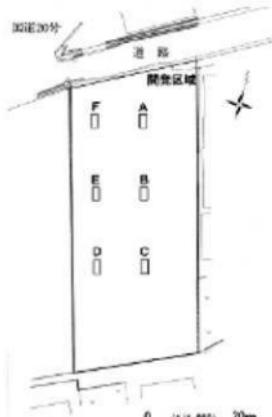
位置図 (1/5,000)



第2地点A

1
2
3
4
5

- 1 砂土：粘性不規則で、褐色から茶色、少量。
- 2 褐褐色土：粘性・粒度りやせ混じ、褐色
スコリア（3mm以下）少量。
- 3 褐褐色土：粘性・粒度りやせ混じ、褐色
スコリア（3mm以下）少や多。
- 4 褐褐色土：粘性強く、褐色り（5mm以下）少量。
- 5 泥炭土：シーム。



第3地点平面図 (1/1000)

第2地点平面図 (1/1000)・土層図 (1/40)

12 塚場古墳群

調査目的　自然崩壊に伴う遺物採取

調査地 上野原市上野原1,044番地

調査期間 平成29年（2017）6月29日

調查面積 2 m²

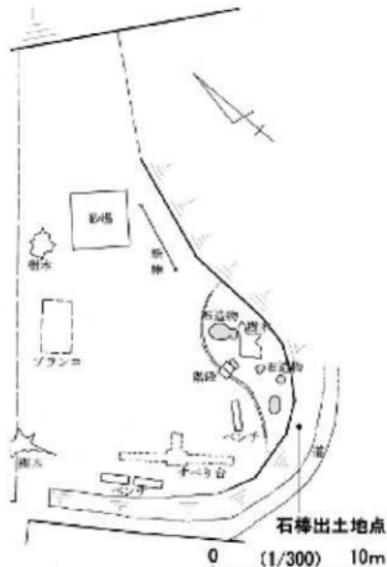
概要 塚場古墳群は河岸段丘背後の緩やかな丘陵頂部に位置し、昭和50年『上野原町誌』によると前方後円墳1基と円墳数基から成るとされる。しかし、一帯は昭和30年代以降に工場の進出などで開発が進み、町誌編纂時には古墳群の詳細は不明確となっていたようである。

今回の調査地である榛名山公園は古墳群の一角にあり、住民によると昭和42年頃に円墳（直径数十m、高さ数m）を削って造成したという。現在、公園南側に

塚状の高まりがあり、江戸期の石塔群（棟名山、二十三夜、庚申、大六天）が祀られている（右下写真）。石塔群の裏手は工場敷地として一段低く造成され、段差の法面に大型石1点が数十年間露出していた。この石は古墳の石室ではないかと言われていたが、土の崩落が進み、落下する危険が出てきたため採取することになった。



位置図 (1/5,000)



榛名山公園の見取り図



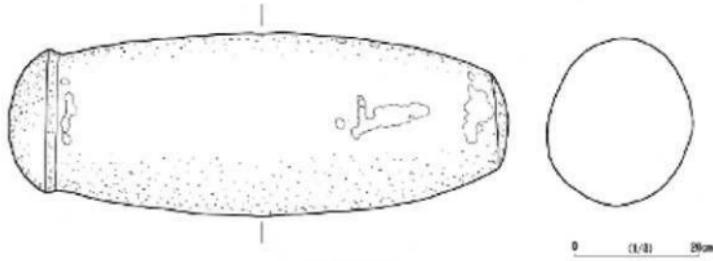
榛名山公園の全景（北西から）



塚状の高まりと石塔群（西から）

採取した大型石は男根状を呈する。表土直下（地表下90cm）のローム上に位置し、横位の状態で洞の一部が露出していた。完形で、全長80.6cm、最大幅27.5cm、最大厚24cm、重量86.2kgを測る。頭部は半球状、基部は面取り状に整形される。断面は楕円形を呈する。石材は花崗岩と見られ、桂川上流域に由来するものと思われる。白色が基調となるが、頭部から基部にかけて斑状に薄く黒ずむことから、火熱を受けた可能性も考えられる。表面は全体に滑らかだが、頭部直下と洞部の一部があばた状に剥落している。造構は確認できず、他の遺物や焼土・炭化物は見られなかった。

大型石が用いられた時期は証左に欠け、不明確である。ただし、昭和37年の遺跡台帳では、一帯を古墳の他に「縄文式」の遺跡とし、縄文土器や「石槌・石鎌・石臼」が出土したとしている。また、町誌編纂時の写真には塚場古墳で出土したとする縄文中期の曾利式土器片10点を記録しており、当地が縄文時代の遺跡であったことが分かる。このことから、本遺物を縄文時代中期から後期に盛行した大型石棒の一種と捉える。市内では石棒の出土が数例知られているが、本例のように大型で完形の類は少ない。



石棒実測図



石棒出土状況



石棒

こさわはら 13 上野原字小沢原

調査目的 宅地造成工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市上野原字小沢原4439-1

調査期間 平成26年（2014）11月4日・5日

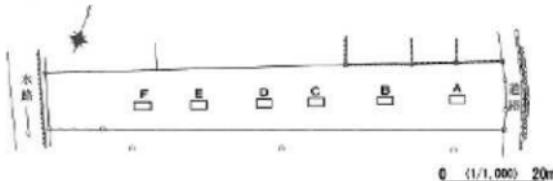
調査面積 18m²（対象面積1,198m²）

概要 調査地点は鶴川支谷延長上の緩斜面地（標高280m～283m）で、東120mほどの山麓では縄文早期の押型土器や前期の諸礎式土器が採集されている（西シ原遺跡）。バックホーでトレンチ6ヶ所を掘削した結果、層序は表土・褐色土・暗褐色土・地山ロームで、全般に小砾を含んでいた。遺物はすべてのトレンチから出土し、縄文土器23点、土師器3点、打製石斧1点、礎23点であった（下図）。出土層位は地表下約90cm～1mの暗褐色土である。縄文土器は微隆起線や

沈線の区画内に縄文を施し、中期末から後期前半に比定される。打製石斧は完形で、長さ12cm・最大幅7.6cm・厚さ2.9cm・重さ250gm。石材は頁岩。土師器は微片である。礎は拳大以下で、焼礎4点がある。遺構はなかった。



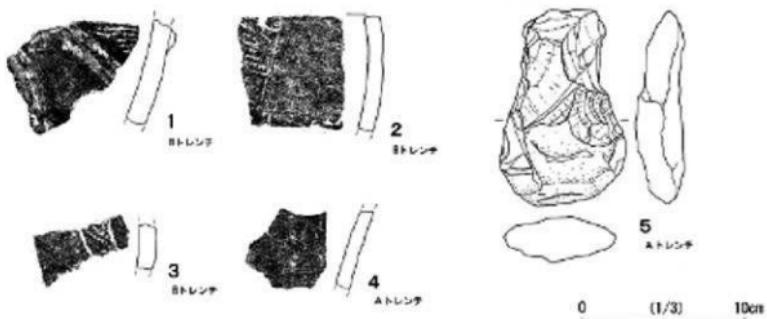
位置図（1/5,000）



調査区平面図



調査地近景



出土遺物

14 上野原字宮のこし

調査目的 店舗建設工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市上野原字宮のこし695-1、695-2、697他

調査期間 平成24年（2012）8月28日

調査面積 37m²（対象面積944m²）

概要 店舗跡地（標高約256m）をバックホーで掘削した。

層序は整地層（厚さ1m）・旧表土・黒褐色土・ソフトローム層で、ロームまでの深さは概ね2.2mであった。遺構・遺物はなかった。



調査地近景

15 新田字稻干場

調査目的 JR上野原駅南口整備に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市新田631、965、1499番地

調査期間 平成27年（2015）2月23日・24日

調査面積 9m²（対象面積600m²）

概要 JR中央線沿いの畑地（標高約175m）を人力で掘削した。

耕作土直下で河川堆積由来の砂礫層を確認した。耕作土（客土）で須恵器・土師器・陶磁器片が少量出土したが、遺構はなかった。



調査地近景

15 鶴川字鶴川

調査目的 高齢者住宅等建設工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市鶴川字鶴川86-2、87、88-1、89、90-1、91-2

調査期間 平成28年（2016）3月1日

調査面積 24m²（対象面積500m²）

概要 旧甲州街道鶴川宿の北端（標高205m）に位置する。

バックホーで掘削した結果、表土（厚さ10cm）下は礫質土で、地山礫層に続いていた。繩文土器片1点が出土したが、遺構はなかった。



調査地近景

第Ⅲ章　まとめ

大堀I遺跡や牧野遺跡では広範囲を試掘したが、遺構・遺物は希薄であった。過去の調査で、大堀I遺跡で平安時代の住居、牧野遺跡で縄文時代中期末から後期の遺物包含層が見つかっているが、これらの分布は今回の調査結果から局所的であった可能性が高い。一方、上野原字小沢原では遺跡未周知の場所で縄文時代の遺物が出土し、塚場古墳群では一帯が縄文時代の遺物散布地でもあることを確認するなど新たな情報を得ることができた。開発が進み、遺物の表面採集が難しい地域で遺跡を把握するためには、試掘調査はもとより、地元住民の聞き取りや過去の文献探索も有効なことを、一連の調査を通して再確認した。

報告書抄録

ふりがな	やまなしけんうえのはらしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ 3			
書名	山梨県上野原市内遺跡発掘調査報告書3			
シリーズ	上野原市埋蔵文化財調査報告書第9集			
編著者名	小西直樹			
編集発行	上野原市教育委員会			
所在地	〒409-0192 山梨県上野原市上野原 3832 電話 0554-62-3409			
発行日	平成30年(2018)3月16日			
遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
みなみおおはまいせき 南大浜遺跡	うえのはらしあわくめざ 上野原市大門 170-1	19212	4-4	北緯 35° 37' 57" 東經 139° 5' 31"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別、主な時代と遺構・遺物
	20170824～20170824	6m ²	試掘確認調査	散布地、縄文時代、土器
遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
さかいこうとうぐん 塚場古墳群	うえのはらしうらよのほら 上野原市上野原 1,044	19212	6-11	北緯 35° 37' 26" 東經 139° 7' 16"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別、主な時代と遺構・遺物
	20170629～20170629	2m ²	自然崩壊	散布地、縄文時代、石器
要約	本書は市内16ヶ所における遺跡確認調査の成果をまとめた。このうち、南大浜遺跡は河岸段丘面に位置し、縄文時代中期後半の土器が出土した。塚場古墳群は河岸段丘面に位置し、縄文時代のものと見られる大型石棒を採取した。この他、上野原字小沢原では、遺跡未周知の場所で縄文時代中期末から後期前半の土器や石器が出土した。			

上野原市埋蔵文化財調査報告書 第9集
山梨県上野原市 市内遺跡発掘調査報告書 3

平成30年（2018）3月16日発行
編集・発行 上野原市教育委員会
